

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	タムラ製作所坂戸事業所再開発プロジェクト	階数	地上2F
建設地	埼玉県坂戸市千代田五丁目5番1	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条指定区域	平均居住人員	50人
地域区分	5地域	年間使用時間	2,500時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月 予定	評価の実施日	2019年12月5日
敷地面積	12,640 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 梶建築設計事務所
建築面積	4,309 m <sup>2</sup>	確認日	2019年12月5日
延床面積	4,827 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社 梶建築設計事務所 金子 正



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.2** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ・断熱性の高い材料の採用と高効率な設備機器の導入、節水器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。	<b>その他</b> ・特に無し	
<b>Q1 室内環境</b> ・ほぼ全面的にF☆☆☆☆の建材を使用し、全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	<b>Q2 サービス性能</b> ・耐用年数の長い内装材・設備機器の採用により、建物の耐用性の向上に配慮している。 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・特に無し
<b>LR1 エネルギー</b> ・高効率な設備機器を採用し、エネルギーの効率的利用に配慮している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・主要水栓は節水器具とし、節水便器を使用する等水資源の保護に配慮している。 ・躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。	<b>LR3 敷地外環境</b> ・高効率な設備機器の採用によりCO <sub>2</sub> の削減に配慮している。 ・広告物照明はない。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
**Q: Quality** (建築物の環境品質), **L: Load** (建築物の環境負荷), **LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性), **BEE: Built Environment Efficiency** (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
 タムラ製作所坂戸事業所再開発プロジェクト第 期工事

使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版  
 評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>0 建築物の環境品質</b>								<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>					<b>0.30</b>	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>				<b>3.0</b>	0.15	-	-	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1.2 遮音				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				<b>3.0</b>	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	
1.3 吸音				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
<b>2 温熱環境</b>				<b>2.2</b>	0.35	-	-	<b>2.2</b>
2.1 室温制御				<b>3.5</b>	0.50	-	-	
1 室温		断熱性能の高い外皮材料を使用		<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2 外皮性能				<b>5.0</b>	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性				<b>3.0</b>	0.38	-	-	
2.2 湿度制御				<b>1.0</b>	0.20	-	-	
2.3 空調方式				<b>1.0</b>	0.30	-	-	
<b>3 光・視環境</b>				<b>3.3</b>	0.25	-	-	<b>3.3</b>
3.1 昼光利用				<b>2.4</b>	0.30	-	-	
1 昼光率				<b>2.0</b>	0.60	-	-	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 昼光利用設備				<b>3.0</b>	0.40	-	-	
3.2 グレア対策				<b>3.0</b>	0.30	-	-	
1 昼光制御				<b>3.0</b>	1.00	-	-	
3.3 照度				<b>3.0</b>	0.15	-	-	
3.4 照明制御		1作業単位以下で制御、端末スイッチで調整可能		<b>5.0</b>	0.25	-	-	
<b>4 空気質環境</b>				<b>3.6</b>	0.25	-	-	<b>3.6</b>
4.1 発生源対策				<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		天井裏を含めほぼ全面的にF を使用		<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.2 換気				<b>2.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上		<b>4.0</b>	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮				<b>1.0</b>	0.33	-	-	
4.3 運用管理				<b>4.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		全館禁煙		<b>5.0</b>	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>				-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 機能性</b>				<b>2.8</b>	0.40	-	-	<b>2.8</b>
1.1 機能性・使いやすさ				<b>2.3</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応				<b>1.0</b>	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				<b>4.0</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高:3.0m		<b>5.0</b>	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		リフレッシュスペース:1%以上		<b>4.0</b>	0.33	-	-	
3 内装計画				<b>3.0</b>	0.33	-	-	
1.3 維持管理				<b>2.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>				<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振				<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				<b>3.0</b>	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		耐用年数が短くなるダクトは全面的にSUSを採用		<b>4.0</b>	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種において2種類以上にB以上を使用しEは不使用		<b>5.0</b>	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2.4 信頼性				<b>2.6</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備				<b>2.0</b>	0.20	-	-	
3 電気設備				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法				<b>3.0</b>	0.20	-	-	
5 通信・情報設備				<b>2.0</b>	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:4.31m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.09	5.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> =0.62	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.56	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		自動水栓に加えて節水型器具を採用	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.7</b>	0.60	-	-	<b>2.7</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.11	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.22	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>		-	3.0	0.22	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		-	1.0	0.22	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			-	-	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体と仕上材の分離が容易である	4.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.5</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	GWP値の低い断熱材の採用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		LCCO2排出率:79%	<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.2</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県

# 重点項目シート

使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	タムラ製作所坂戸事業所再開発	BEE	1.2	BEEランク
------	----------------	-----	-----	--------

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア			
3.8	+	2.3	=	6.1	
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満		良い 6.0以上		非常によい 6.8以上	
				すばらしい 8.0以上	

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		スコア平均	3.8
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.8
・高効率な設備機器の採用によりCO <sub>2</sub> の削減に配慮している。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.3
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	1.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	3.0
・緑地や通路の空地を設けることにより、風の通り道を確保している。			
・広告物照明はない。			

 : 入力欄